

KANKO TIMES

Vol.5

(発行元)
〒700-0024 岡山市北区駅元町15-1
岡山リットシビル5F
管公学生服株式会社

制作/山陽新聞社広告本部

特集

キャリア教育 を考える

【1・2面】人づくり対談 キャリア教育に求められること キャリア教育コーディネーター 生重 幸恵さん・キャリアカウンセラー 小島 貴子さん

【2面】学校革命
神奈川県立元石川高等学校
岡部 佳文 校長

【3面】生徒の力を引き出す指導力
兵庫県立西脇工業高等学校 兵庫県立西脇工業高等学校
足立 幸永 先生
愛知工業大学附属中学校 愛知工業大学附属中学校
真田 浩二 先生
第40回全国高等学校総合文化祭「2016ひろしま総文」
加藤 浩司 先生

【4面】2016ひろしま総文を振り返って 手帳を活用した心理カウンセリング つだ つよし さん

掲載記事の詳しい情報はカンコーWEBサイトでご覧いただけます。WEB限定記事もお読みいただけます。



カンコータイムズ

キャリアカウンセラー

小島 貴子さん

こじま・たかこ

東洋大学理工学部生体医工学科准教授。埼玉県人事委員会委員、一般社団法人多様性キャリア研究所所長。三菱銀行(現・三菱東京UFJ銀行)勤務。出産退職後、7年間の専業主婦を経て、91年に埼玉県庁に職業訓練指導員として入庁。キャリアカウンセリングを学び、職業訓練生の就職支援を行い、7年連続で就職率100%を達成する。多数の企業で採用・人材育成コンサルタント及びプログラム作成と講師を務める。ラジオNIKKEI「小島・鈴木のダイバーシティ・プラットフォーム」放送中。二男の母。

ア教育は第二次の職業意識教育に移行しつつあります。自分が本当にやりたいこと、進みたい道を自分で見つけてどう構成していくか、自らの生き方をどう育てていくかが問われています。生重 最初の頃の職場体験的な職業教育からの脱却を意味することは重要。ただ、働くための教育にはなっていない。

オリジナルティに対して尊敬を与え持たせることが大事ですね。なんでもかんでも「最後までできちんと」と型にはめてしまっているのではなく、これから開花していく準備期間と捉えて、今の段階ではここまでしかできないけど、それでいいんだという構えが必要ですよ。生重 人は「働く」ということ

いましたけれど、今は全入学という形で、ほぼ全員が高校に上がります。でも高校でついていけない子の中には、その後目的が定まらず就職できず道に迷ってしまうケースもあります。その一方で、漢字も満足に書けなかった子が、中学を出て職業訓練を受けて専門技術を身につけると、就職して立派に生きていくようになるんですよ。生重 職能を身につけて現場に

出で、そこで初めて必要な専門的な学術知識を身につけたという意欲が高まる子もいるでしょう。そういう動機で学びを深化させていくのが、本来の流れではないかと思えます。生重 その通りです。でも残念なこと、今の教育システムは、学び直しのチャンスがなかなか得られない。生重 さらに、みんながみんな大学へ進むことが、果たして本当に将来を輝かせることにつながるのかというところも最近議論されていますね。実際、大学を卒業しても就職できない若者がいる。中学を卒業して働いて身を立てる、という選択肢が取り上げられてしまうのはとても残念です。小島 そうですね、職場教育は子どもに意識変化をもたらしますから。例えばあいつがそうです。学校で注意されてもなかなかできなかった子が、職場に入ると即できるようになる(笑)。職場ではあいつが出来る(笑)。職場にはあいつが出来る(笑)とチームに入れてもらえませんか。あいつは自分という存在と他者をつなぐための言葉であるということを本質的に理解させられます。自分で決める、自分で管理する。生重 小島先生は、人材育成やキャリア教育のトレーニングとして、まず「自分で決める」ことを重要テーマに掲げていますね。小島 これまで日本の人材教育



キャリア教育コーディネーター

生重 幸恵さん

いくしげ・ゆきえ

特定非営利活動法人スクール・アドバイザー・ネットワーク理事長。一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表理事。文部科学省第8期中央教育審議会委員。PTA会長時代から学校の支援を積極的に行い、その経験により区内の他校PTA会長経験者と共にスクール・アドバイザー・ネットワークを設立。全国の教育委員会・PTA等主催研修会で講師を務め、「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画。企業の教育支援活動の推進にも助力し、社員研修やフォーラム等を実施。企業の持つノウハウを学校授業につなげるためのプログラム開発を手がける。内閣府の地域活性化伝道師、第8期東京都生涯学習審議会委員、東京都社会教育委員など歴任。

生重 もともとキャリア教育の意義が問われるようになった背景には、ニートやフリーターの社会問題があります。学校を卒業して、そこから自分の役割を見つけて輝く人になってほしいのに、働きたくても働けないで社会で漂流している若者たちが実際に少なくない。小島 そうですね。今、キャリア

小島 知識を教えこむ、あるいは、指導という型にはめてそれをやってこい、という教育では立ち行かなくなってきたんです。自分の生き方を自分で決めるというのは、人からこうしなさいと言われてできるものとは違います。その人自身にしかわからないものなわけです。だからそれぞれの自分にしかないオリジナルティの部分大事にさせて、自分で磨かせる。

を前提に生きていくわけですから、たとえ高校を飛び越えて、中学を出て、そのままその道のプロを目指し取り組む子がいてもいいと思うんです。高校に行かないという選択ができないために不幸なケースもあるのでは。小島 そう。中卒の子の進路先として職業訓練校はとても大切だと感じます。職業訓練指導員をしていた当時、中卒から訓練校に進学する子どもがたくさん

出で、そこで初めて必要な専門的な学術知識を身につけたという意欲が高まる子もいるでしょう。そういう動機で学びを深化させていくのが、本来の流れではないかと思えます。生重 その通りです。でも残念なこと、今の教育システムは、学び直しのチャンスがなかなか得られない。生重 さらに、みんながみんな大学へ進むことが、果たして本当に将来を輝かせることにつながるのかというところも最近議論されていますね。実際、大学を卒業しても就職できない若者がいる。中学を卒業して働いて身を立てる、という選択肢が取り上げられてしまうのはとても残念です。小島 そうですね、職場教育は子どもに意識変化をもたらしますから。例えばあいつがそうです。学校で注意されてもなかなかできなかった子が、職場に入ると即できるようになる(笑)。職場ではあいつが出来る(笑)。職場にはあいつが出来る(笑)とチームに入れてもらえませんか。あいつは自分という存在と他者をつなぐための言葉であるということを本質的に理解させられます。自分で決める、自分で管理する。生重 小島先生は、人材育成やキャリア教育のトレーニングとして、まず「自分で決める」ことを重要テーマに掲げていますね。小島 これまで日本の人材教育

キャリア教育に 求められること 教えることから育てることへ



「成長社会」から「成熟社会」へと、複雑多様化していく現代。学校現場においても、これまでの正解を求める教育から、課題を発見し解決する力を養い育てる教育へと変換を求められています。新しい時代を生きていくために、今後子どもたちをどう育てていけばよいのか。キャリア教育の要点や子どもたちに学んで欲しいことについてお二人に対談していただきました。

一般社団法人
カンコー教育ソリューション研究協議会 設立

管公学生服株式会社は、未来を担う子どもたちのため、有識者を交えて様々な教育課題を調査研究し、教育現場の方々が生活用しやすく、成果の出しやすい解決策をご提供していくことを目的として社団法人を設立しました。今後のKANKO TIMESでは、この活動で生まれた実践事例なども取り上げて参ります。ご期待ください。

カンコーホームルーム

調査対象
日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、中国の高校生600人(各国100人)

調査方法
インターネットリサーチ

調査時期
2016年8月

将来の夢はありますか?
「ある」と答えた高校生

中国	99.0%	オーストラリア	96.0%
アメリカ	98.0%	韓国	83.0%
イギリス	96.0%	日本	67.0%

※日本では3人に1人の高校生が将来の夢が「ない」と答えています。

は、「自分で決める」ことをあまり承認してこなかったんですね。まず、自分で決めさせてそれをしっかりと承認すること。それによって自己肯定感が育ちます。自己肯定感が低いと、チャレンジする前にあきらめてしまふ。大人になり、一人で自分の道を選択するために、自己肯定感はとても大切なんです。

生重 自分で決めるということ、教えてもらわなくても自分で学ぶ能力を身につけることにもつながりますから。自分で決めて、たとえそれが失敗したとしても、自己肯定感のある子は、体験を通して自分で自分を矯正していくこともできるでしょう。時間の管理も、普段から主体的に考えて行動する習慣がない限り、身につかないですね。

「なぜ？」を問う力

小島 それと、問いを立てる力を育てることも重要なポイントだと思っています。質問する時間を持たせないと、指示されて動くことに慣らされてしまします。いわゆる「指示待ち」ですね。こちらも「自分で決める」ことと同じく、特に高校教育の中であまりやってこなかった部分ですね。

生重 確かに。今、なぜ高大接続システムの議論が生まれているかというところ、やはり高校教育の質が問われ直しているからだと思います。

小島 教えてもらったことをそのまま鵜呑みにするのはな

く、これは正しいのかと疑ってみる。なんかへんだな？と思ったら、口に出して発言したり、調べたりしながら熟成させていくと「知識」になります。学問で得た情報を集積して整理分析、編集加工、アウトプットする過程が必要なんです。そこを経て初めて「知識」が体現化します。どうか醸成する時間を子どもたちに与えてほしいと思いますね。

生重 自分で決める、「なぜ？」を問う。まさにそこがキャリア教育の原点かもしれないですね。自分の人生やキャリアを自分で決める。偏差値や学歴に縛られない生き方を模索していく時代がやってきていると感じますね。みんなと一緒にいるのもなくなる。自分の生き方をそれぞれが突き詰めていかないとけない。

小島 そうです。「自律」から「自



立」へのプロセスです。さらに具体的な手法を紹介すると、問いを立てる時、質問と設問を使い分けることが「決め方」のトレーニングにつながります。質問は単なる事実の確認や問い合わせ、設問は問題提起を含みます。例として「〇〇をしたい場合、何をどうすればいいだろうか？」的な問い方です。解決を導くような答え方を要求されるので、考える習慣が身につくようになります。

求められる「チーム学校」

生重 ところで、最近の学校現場で問題視されているのが先生方の多忙化です。実際「子どもと接する時間が少ない」という声をよく聞きます。先生方が子どもと向き合い、授業に専念する体制をつくるためにも、学校の中だけで負担を解決しようとするのではなく、家庭や地域にフィールドを広げて学校組織全体の総合力、いわゆるチーム力を高めていくことが大切だと感じます。

小島 そうですね。これからの学校教育は、子どもたちが自ら課題を発見し、他者と協働してその解決に取り組む力を育てることが求められます。教育の外側にある社会のしくみや活動と関連させる意味でも、外部の人材は非常に大きな力になると思いますね。

生重 最近では、大学などでもアクティブ・ラーニングの手法として課題解決型学習が積極的に

取り入れられていますね。

小島 学生たちがプロジェクトを組み、ある課題に取り組む、いわゆるPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)は私も大学で取り入れています。一例として、ある地域の名産のホタテを、その収穫時期にブランド化して売り込もう、そのためには人はどのくらい必要で税金はいくらかかるか、何日間かかるかといった具合に進めます。キャリア教育を「見える化」するには、一番よい手法です。

生重 中学、高校の各教科でもぜひこれを取り入れてほしいですね。それぞれの科目をその先にある地域や産業、経済など「社会」と結びつけて考えさせる時間ができること、さまざまなつながりが見えて、今なぜこれを学ぶ必要があるのかわかります。ゲームソフトを開発するには数学の関数やベクトルがわかっているのと、だめだとか(笑)。

小島 課題解決型学習は、目的や目標を設定するので意欲付けにもつながりますよ。

生重 PBLをとっていてもわかるように、キャリア教育を実践していくには、先生方も柔軟に、もっとラクに、地域の人やゲストを招いて頼ってほしい。さまざまな職種の人との関わりを通して、子どもたちに「働くことはなんであるか」を考えさせること。多様な他者を受け入れる環境をぜひ学校の中につくってほしいと感じますね。

(取材/川田達彦)



スクールイノベーション
学校革命!
神奈川県立
元石川高等学校
岡部 佳文 校長

県立普通科高校の挑戦
生徒に「社会を生きる力」を身につけさせる学校改革

「自立、協働、創発(創造の連鎖)」を掲げ、民間企業出身ならではの視点で「キャリア教育」による改革を進める岡部校長。その具体的な取り組みについて話をうかがいました。

こと、できることを地域に働きかけてみる。学校以外の社会から評価してもらうところに、大きな意義があると感じます。

31年ぶりの制服改定

さらに、制服改定にも踏み切りました。時代遅れの制服のままで、着ている生徒自身も誇りや喜びを感じることはできません。デザインについては、副校長より、生徒に考えさせてみてはどうかと提案があり、全校集会で呼びかけ、名乗りをあげた5人の女子生徒で制服検討委員会を立ち上げました。同時に、乃木坂46、ももいろクローバーZなどのスタイリストとして活躍する米村弘光さんとの協働プロジェクトを実現でき、制服づくりを通じた「キャリア教育」につながりました。プロの着眼点に刺激を受け、生徒の視野も広がったと思いますね。特にマーケティングやものづくりに

を切り開いていくか。社会に通用する力を育てる「キャリア教育」は、普通科高校ほど必要なのではないかと感じていました。まずは「社会を見る」↓「仕事を知る」↓「自分がどうなりたいかを絞り込む」といったプロセスを設け、生徒自ら考え、発信していく力、課題を解決していく力を高めていきたい。

外部の専門家と協働

具体的には、大学の先生や企業の方々に参画していただき、5人ぐらいのグループで、社会問題にアプローチして解決を導いていくというプロジェクト型の授業を来年度より展開します。また、生徒が主体となって、地域の商店街の方々と連携し、企画から手がけるイベント活動なども奨励していきます。生徒自身が学校の外に飛び出し、やりたい



(取材/川田達彦)

キャリア教育からみた体育・文化活動

生徒の力を引き出す指導力

中学生や高校生の人間形成に大きな役割を担う部活動。チーム力アップのための練習法をはじめ、生徒の潜在力や創造力を引き出す指導のあり方を担当の先生方にお聞きしました。



陸上競技部・実績

◎2015年 全国高校駅伝
男子16位・女子5位入賞
◎2016年 全国高校総体
男子5000m 6位入賞
女子1500m 1位・2位・3位 表彰台独占

「速い選手」「強い選手」を育成することは大切ですが、ただ競技力だけを強化しても良い選手に育つとは限りません。良い選手とは「応援される選手」だと考えています。応援される選手は人として魅力があり、陸上競技にかかわらず、社会でも強く生きていく力を持っています。部活では「日常五心」を柱に感謝の気持ちや思いやりの心を持つこと、学校での生活態度を見直すことなどを指導し、高い人間力を養うことを目指しています。また選手の主体性を育むことも課題です。今の子どもは「教えてもらえろ」という依頼心がとても強く、自ら考えて行動することが苦手。合宿では部員一人一人に役割を与え、どうすれば他の人が動くのかを考えさせています。陸上に関するいろいろなことでも、自主的に行動することは、競技につながっていることを実感してほしいですね。

◆教員は生徒たちの「夢の請負人」

人間的な魅力を養い「応援される選手」を育成

プロフィール
西脇工業高校を卒業後、日体大に進学し箱根駅伝でも活躍。96年から母校に戻ってコーチに就任し、後進の指導に当たる。選抜前監督を引き継ぎ、09年より現職。



部活指導 陸上競技部顧問
兵庫県立
西脇工業高等学校
足立 幸永 先生



卓球部・実績

◎2013～16年
全国中学校卓球大会 優勝
4連覇中
◎2013～16年
全国中学校選抜卓球大会 優勝
4連覇中

就任後の3年間は強豪校の壁を越えることができませんでした。そのためメンタルトレーニングを学び、大会前など不安にのみ込まれがちな生徒たちをプラス思考に変えるため工夫。何かを教える際も、頭ごなしに否定せず、「こうした方がいいよ」と伝えます。特に試合前は選手に気持ちを高めることに集中しました。結果、1カ月後の選抜大会で強豪校を破り、以来4年間、全中・選抜大会ともに4連覇中です。最近の子どもたちは、あまり他人に関心がないように感じられます。相手を観察して作戦を立てることができなくては強くなれません。「すべてが卓球に通じる」と、生徒たちには普段からクラスメートの気持ちを洞察させるなどして、力を身につけさせています。本校の生徒たちの多くは日本代表を目指しているのですが、中高の部活動は夢への通過点。だからこそ、「最後まであきらめず、やるべきことをやる」という心を育てていきたいです。彼らの夢に寄り添い、前だけを向いて歩んでいきたいと思っています。

◆選手のモチベーションとなり、メンタル面から支える

あきらめず、やるべきことをやる

プロフィール
中高一貫校で卓球に打ち込み、実業団へ日本代表として世界選手権にも出場。現役引退後、母校の監督に就任し、現在に至る。



部活指導 卓球部顧問
愛知工業大学
附属中学校
真田 浩二 先生



2016ひろしま総文の歩み

◎2014年4月
推進担当設置
◎2014年6月
広島大会正式決定(2011年内定)
◎2014年7月
生徒実行委員会発足
◎2016年7-8月
2016ひろしま総文開催!

総文祭は生徒自身が企画運営を担いつくり上げていくものです。最初は互いに見知らぬ高校生同士なので、「コミュニケーションがとれず苦労もありました。しかし、会議を重ねるにつれ、それぞれが活発に発言できるようになり、ディスカッションを深めたり出された意見をまとめたりするなど、成長する姿が見てとれました。目標を掲げ、意欲が高まるにつれ、生徒自身が必要な資料をネットや本から集めてくるなど、自分で考えて行動できるようになり、アクティブな生徒が増えてきました。総文祭は生徒自身

◆生徒の発言を、大人の視点でサポート

生徒と教員がともに学び、ともに成長する

プロフィール
行政職として、二重県教育委員会勤務。また、高校教育、社会教育、生涯学習を担当。



運営指導 第40回全国高等学校総文祭文化祭
「2016ひろしま総文」
総合文化祭推進監
加藤 浩司 先生



先生方を応援するWebサイトがOPENしました!

KANKO 学校先生支援サイト
先生 コミュニティ
～人づくり、現場指導～

現場で指導にあたる先生方の課題解決につながる情報をお届けします!

5つのテーマがオープン!

Q&A コラム 資料ダウンロード 実践実例紹介

様々な情報を発信していきます!

部活指導

キャリア教育

ダンス体育

家庭科

生徒指導

10、11月の募集テーマ 「部活指導においてのご質問、解決したい事」

部活指導でアクティブラーニングはどのように取り入れている?
生徒たちのモチベーションが下がってしまっている...
など部活指導でのお悩みをご投稿ください!
みなさまからいただいたご意見をもとに情報を発信していきます。

みなさまのご意見を大募集!

カンコー 先生コミュニティ 検索

http://kanko-edu.jp/community



教材と発表の場をご提供!

第6回
カンコーダンスコンテスト

ダンス教材 DVD ver.3

[開催期間] 2016年10月17日～2017年2月2日
[投票期間] 2016年11月 1日～2017年2月9日

部活動の指導に、記録に!

部活プランナー by フォーサイト

WEBでご購入もいただけます。

部活プランナー手帳が登場!

2016ひろしま総文

創造の風 希望の光 平和の願い 心の架け橋



総文祭は、高校生による生徒実行委員会が中心となって企画、運営される文化部のインターハイ。仲間たちとの交流・研さん・相互理解を通して「新たな文化」の創出をはかるべく、全国の文化部トップレベルの高校生がその成果を披露します。

今年、広島県で開催された「2016ひろしま総文」は、「夢を持つ」「挑戦する」「感動する」をテーマに2年前から実行委員の生徒たちが準備をスタート。2日目に行われた3県交流会は次年度以降の開催を控える「みやぎ総文2017」「2018信州総文祭」を支える後輩たちに思いを引き継ぐ場となりました。

2016ひろしま総文を振り返って

高校生たちがさまざまな交流・体験を通して、大きな成果と感動を分かち合ったひろしま総文。広島県教育委員会の総文祭開催担当を代表して、指導にあたった加藤先生と、生徒実行委員長の平田さんに話をうかがいました。

将来の「なりたい自分」を意識できた大会



生徒実行委員長 平田 みやびさん

高1の5月に学校から配布された小さな募集のチラシを見て実行委員に応募しました。総文祭はとても大きな大会で、その裏方という活動にも興味を感じ、挑戦したいと思いました。

生徒実行委員会は、県内のさまざまな高校から生徒が集まって組織されるので、お互い知らない者同士。最初は思うように発言ができなかったのですが、会議を重ねるにつれ「コミュニ

ケーションがとれるようになり、自分の思いを伝えたりする機会も多く、普段できない経験ができました。大勢の方に思いを伝える経験をしたことで、新たな自分に気づくことができ、おぼろげだった夢が具体的にいったと感じています。

大会の活動では人前で話したり、自分の思いを伝えたりする機会も多く、普段できない経験ができました。大勢の方に思いを伝える経験をしたことで、新たな自分に気づくことができ、おぼろげだった夢が具体的にいったと感じています。



広島県教育委員会事務局教育部 高等教育指導課 全国高等学校総合文化祭推進監 加藤 浩司 先生

「伝える」をテーマに、広島らしさをアピール

今回のひろしま総文では、広島らしさをいかに伝えるかに苦心しました。総合開会式の開催発表では、音楽や踊りといった視覚的にわかりやすいパフォーマンスを軸に、伝統文化を伝えるパートでは、神楽の演奏や宮島に伝わる管絃祭をイメージした雅楽の演奏、書道パフォーマンスなど、広島歴史文化を表現しました。

平和の尊さを伝えるパートでは、爆心地から約2kmのところで被害を受けた被爆ピアノと原爆詩の朗読を披露。これらはすべて生徒たちの発案によるものです。やり遂げたという達成感、生徒一人一人にとって自信につながったと感じます。

★次年度実行委員会へのメッセージ
大会は運営側の思いがそのままお客様にも伝わるもの。こういう大会にしたい！という思いを一人一人が持つ、楽しみながら取り組んでもらえたのこれです。

★次年度実行委員会へのメッセージ
100日前イベントをした頃から大会まであという間に時間が過ぎた印象です。やることごとく多いため、特に新しいチャレンジは早めに決断して取り掛かるといいと思います。



思いをつなげ！ 次年度以降開催県からのメッセージ

みやぎ総文2017 に向けて

震災からの復興と支援への感謝

全国高等学校総合文化祭推進室 主査 加藤 由希 先生

震災からの復興と支援にくださった「感謝」をベースに、全国のみなさんと宮城県とのつながりを伝えたいと思っています。開会式では、仙台七夕にあやかり、みなさんの願いを短冊に託していただきます。被災した生徒もそうでない生徒も活動を通じて、一人一人が自分にできることを考え、地域の将来を担っていく力を身につけてほしいと感じます。

2018信州総文祭 に向けて

生徒の資質・能力を开花させる場に

全国高等学校総合文化祭推進室 一同

推進室では、来る「2018信州総文祭」を「一過性のイベントに終わらせない」という信念のもと、日々準備を進めています。探究的な活動を通じて、高校生の主体性を伸ばし、思考力・判断力・表現力、さらに多様性や協働性が育まれる場づくりを目指したいと思っています。また、生涯にわたり芸術文化を愛する心を醸成するのも大きなねらいです。生徒たちの奮闘ぶりにご期待ください。

生徒向け手帳活用事例

ドリマ手帳を活用した心理カウンセリング

夢を視覚化することで不登校の子どもたちをもう一度学校へ

心の問題を抱える子どもたちの表現手段として「書き記す」意義について話をうかがいました。

こころ応援塾 主宰 心理カウンセラー つだつよし、さん

大分県の高校を卒業後、吉本興業福岡事務所所属。その後、大分に戻りタレントや構成作家として地元メディアに関わる。子どもたちの夢を応援する番組「ダッシュくん」がきっかけで心理カウンセラーの資格を取得。不登校の子どもたちへの支援活動を行うとともに、全国の教育現場で子育て・教育をテーマとした講演活動も行っている。



最近の子どもたちは、不登校や無気力に限らず、言葉数がとても少ない印象を受けます。自分の気持ちや意見を表現できず会話に行き詰まる。悩みをギリギリまで心の内に抱え込むケースもみられます。

しかし、そんな子どもたちも、文章にすると自分の思いや主張を表現できるんですね。当塾では、手帳や交換日記といったツールをカウンセリングの中に取り入れ、子どもたちが自分の将来や生き方について考えイメージできるように、そしてそこに向かって足を踏み出せるよう、支援を行っています。

当塾が採用しているドリマプランナー手帳は、子ども自身が自分の考えや成長を「視覚化」できるのが特長。一週間の行動目標を立てて、自分ができたこと、できなかったことをチェックしたり、思いを振り返ったりすることで先の見通しが想像でき、自信へとつながっていきます。

不登校の問題を抱える子どもに對しては、起きてしまった過去よりも、これからどうすべきかを考えさせることがポイント。例えば、なぜいじめられたのか？と考えるのではなく、これからの人生をどう生きていくのかという視点に立つことが大切です。

学校に行ってもいいし、行かなくてもいい、というスタンスではなく、私自身は、子ども自身が「学校に復帰することは将来の自分にとって必要」と気づくことが肝要ではないかと思っています。実際、学校を卒業したら誰も助けてはくれませんが、本人が自分でなんとかしなければいけないのが現実です。将来の道筋となる選択肢を与え、自分で自分の人生の可能性を広げていく、そのための支援をモットーに子どもたちに寄り添っています。

(取材/川田達彦)

こころ応援塾

不登校になった児童生徒の早期学校復帰を目的として2015年につだ氏が設立。大分県奨励事業の指定を受け、心のケアに加え家庭学習支援を実施。初年度は受講生12名が全員学校復帰・進学を達成した。「無気力」で目的を持たない児童生徒へも支援を広げている。



カンコータイムズのアンケートに答えて 抽選でプレゼント!



WEB応募フォーム

[秋の学校行事応援セット]

1 Panasonic V480M & 三脚セット 1名様



[中高生向け手帳]

2 部活プランナー手帳 10名様



3 電子ギフト券 500円分 10名様

応募方法 同封のアンケート用紙またはWEBの応募フォームよりご応募ください。(応募締切/2016年10月31日)



発行：菅公学生服株式会社 カンコータイムズ編集部 田中・川田
メールアドレス：k-solution@kanko-gakuseifuku.co.jp
TEL：086(898)2590 FAX：086(898)2513

ご意見・ご感想、取材のご希望についてはメールアドレスもしくはWEBにて受付を行っております。カンコータイムズはこれからも不定期に発行していきます。次号をお楽しみに。カンコータイムズ vol.5 2016年9月発行